編集後記・Editorials

魚類学雑誌 67(1):158–158
2020 年 4 月 25 日発行

北海道大学総合博物館の田城文人と申します．小北智之氏（現・編集委員長）から引き継ぎまして，2020 年 1 月より和文誌主任を担当することになりました．振り返ると，前・編集委員長である甲斐嘉晃氏からの甘いお誘いの barter が和文誌主任への就任（挑戦？）だったようです．私の体験談となりますが，学生時代から編集委員会や校閲者の皆様にはさまざまな点でご助言・ご指導いただき，それらは自身の大きな成長にもつながりました．本誌のより一層の発展のためにも，退任を迎えるその日まで，この大役を一生懸命努めさせていただく所存です．何卒よろしくお願いいたします．

さて，今号は原著論文と記録・調査報告が併せて 16 編となりました．これらのうち 10 編が現役の学生会員によるもので，学生が活躍する場としての本誌の重要性がうかがい知れます．そんな学生会員の皆様にお読みいただきたいのが「先達に聞く」シリーズのインタビュー記事です．今号の川那部浩哉氏はシリーズ最長となりました．日本の魚類学研究の黎明期・過渡期を支えた“大御所・レジェンド”のエピソードはどれも読み応えが十分で，それと同時に，多くを学び，考えるきっかけが随所に盛り込まれています．過去の記事も魚類学会ホームページの「マイページ」からダウンロード可能ですので，ぜひご一読ください．

会員通信でお知らせしたように，本誌の新たなカテゴリーとして「テクニカルノート」を設けました．“科学研究”の発展には“科学技術”の発展が必要不可欠ですが，本誌では後者単体ではなかなか公表しにくいとの現状にありました．さまざまな分野からのご投稿を，編集委員会メンバー一同で大変楽しみにしています．

（田城文人）